

U.S. Indicators

発表日: 2023年10月13日(金)

米国 コアインフレに再加速の動き(9月CPI)

～帰属家賃、賃料、ホテル・宿泊、余暇関連などのサービス価格が上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービス コア
22/09	+0.413	(+8.2)	+0.573	(+6.63)	▲1.7	+0.8	+0.7	+0.0	▲0.4	+0.7	+0.0	+0.8
22/10	+0.488	(+7.7)	+0.333	(+6.28)	+1.7	+0.7	+0.6	▲0.2	+0.7	▲0.3	▲0.1	+0.5
22/11	+0.205	(+7.1)	+0.310	(+5.96)	▲1.4	+0.6	+0.5	+0.1	▲0.7	▲0.4	▲0.2	+0.5
22/12	+0.131	(+6.5)	+0.399	(+5.71)	▲3.1	+0.4	+0.7	+0.2	▲1.6	+0.3	▲0.1	+0.6
23/01	+0.517	(+6.4)	+0.412	(+5.58)	+2.0	+0.5	+0.8	+0.8	+0.4	▲0.4	+0.1	+0.5
23/02	+0.370	(+6.0)	+0.452	(+5.54)	▲0.6	+0.4	+0.5	+0.8	+0.2	▲0.5	▲0.0	+0.6
23/03	+0.053	(+5.0)	+0.385	(+5.59)	▲3.5	+0.0	+0.3	+0.3	▲0.5	▲0.3	+0.2	+0.4
23/04	+0.368	(+4.9)	+0.409	(+5.52)	+0.6	+0.0	+0.2	+0.3	+1.2	▲0.0	+0.6	+0.4
23/05	+0.124	(+4.0)	+0.436	(+5.33)	▲3.6	+0.2	+0.2	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.6	+0.4
23/06	+0.180	(+3.0)	+0.158	(+4.83)	+0.6	+0.1	+0.3	+0.3	+0.2	+0.0	▲0.1	+0.3
23/07	+0.167	(+3.2)	+0.160	(+4.65)	+0.1	+0.2	+0.4	▲0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.3	+0.4
23/08	+0.631	(+3.7)	+0.278	(+4.35)	+5.6	+0.2	+0.3	+0.2	+2.6	+0.2	▲0.1	+0.4
23/09	+0.396	(+3.7)	+0.323	(+4.15)	+1.5	+0.2	+0.6	▲0.8	+0.3	+0.2	▲0.4	+0.6

(注) 括弧内は前年同月比

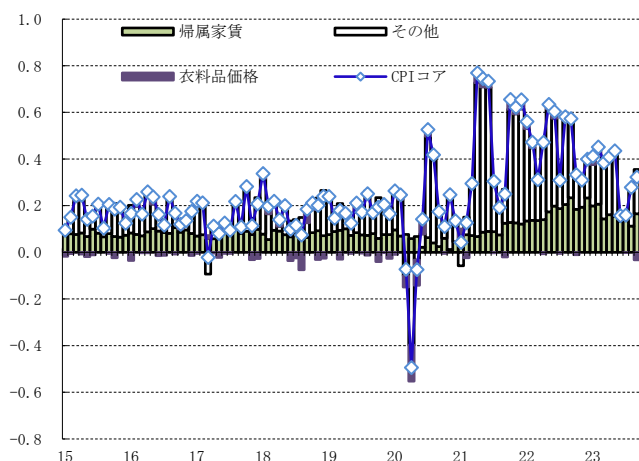
23年9月の消費者物価(総合)は、前月比+0.4%(8月同+0.6%)と市場予想中央値+0.3%(筆者予想同+0.3%)を上回ったものの、低下した。食品が前月比+0.2%(8月同+0.2%)と同率の伸びとなったほか、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)は前月比+0.323%(8月同+0.278%)と市場予想中央値同+0.3%(筆者予想同+0.3%)と一致したが、小幅加速した。一方、エネルギーが前月比+1.5%(8月同+5.6%)と低下した。

CPIコアでは、財コアが前月比▲0.4%(8月同▲0.1%)とマイナス幅を拡大した一方、サービスコアが前月比+0.6%(8月同+0.4%)と上昇し、高い伸びとなった。財では、余暇商品、教材、情報機器、アルコール飲料が上昇に転じたうえ、その他財が上昇した。一方、家庭用耐久・消耗品、衣料品、自動車部品、医療用品が下落に転じたほか、中古車が下落幅を拡大した。

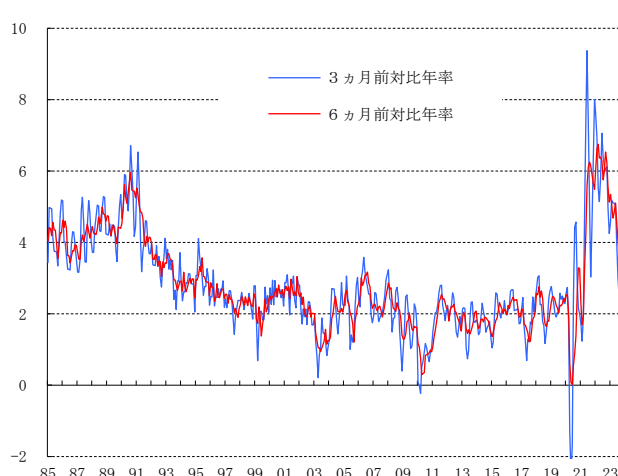
サービスでは、航空運賃、レンタカーが低下したうえ、インターネットサービスが下落した。一方、ホテル・宿泊、余暇サービスが上昇に転じたほか、帰属家賃、医療サービス等が上昇した。また、賃料、自動車保険、その他個人向けサービスが高い伸びを続けた。

インフレの基調を示すCPIコアの安定には、前月比で+0.2%以下の低い伸びが継続する必要があるが、実現したのは6、7月の2ヵ月間だけにとどまり、直近2ヵ月に再び+0.2%を上回った。また、3ヵ月前対比年率+3.1%(前月+2.4%)と短期的なCPIコアの上昇モメンタムが強まった。さらに、6ヵ月前対比年率では+3.6%(前月+3.7%)と低下したが高い上昇率にとどまっており、中期的なインフレ圧力が依然強いと判断される。

CPIコアの寄与度分解（前月比）



CPIコアの推移

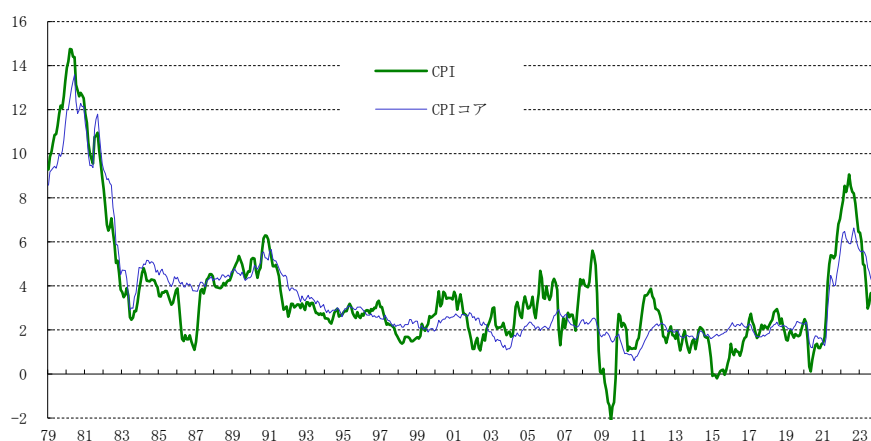


前年同月比では、総合が+3.7%（8月+3.7%）と同率の伸びとなり、市場予想中央値+3.6%（筆者予想+3.6%）を上回った。食品が+3.7%（同+4.3%）と低下したほか、CPIコアが+4.1%（同+4.3%）と低下し、市場予想中央値の+4.1%（筆者予想+4.1%）と一致した。一方、エネルギーは▲0.5%（同▲3.6%）と下落幅を大きく縮小し、総合指数に対する押し下げ寄与を弱めた。

CPIコアでは、財コアが0.0%（8月+0.2%）、サービスコアが+5.7%（同+5.9%）とともに小幅低下した。財コアでは、中古車、自動車部品、教科書、情報機器が下落したほか、医薬品など医療用品、衣料、新車、娯楽用品等が低下した。

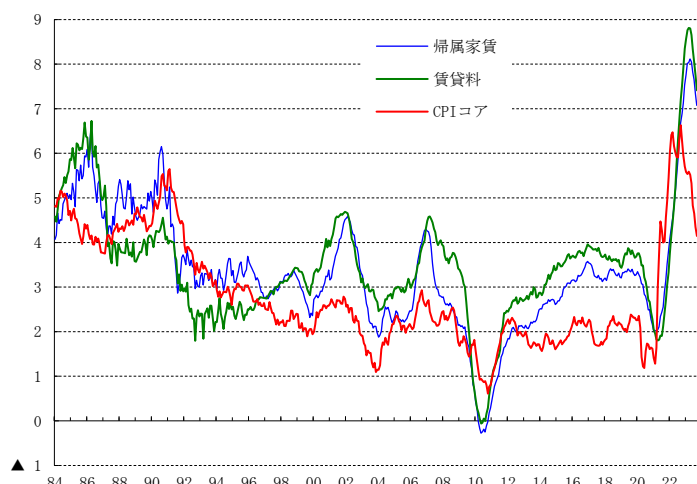
サービスコアでは、医療保険、レンタカー、航空運賃、携帯が下落したほか、賃貸料、帰属家賃が高い伸びながら低下した。ただし、サービスコアは前年比+5.7%と高い伸びにとどまっておられ、CPIコアは鈍い低下を続けている。

米国：CPIとCPIコア物価の推移（前年同月比）

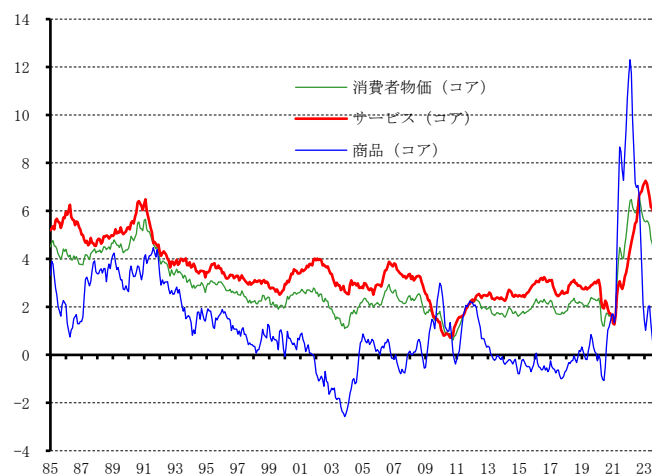


（出所）米労働省

(%) CPIコアと帰属家賃・家賃の推移 (前年同月比)

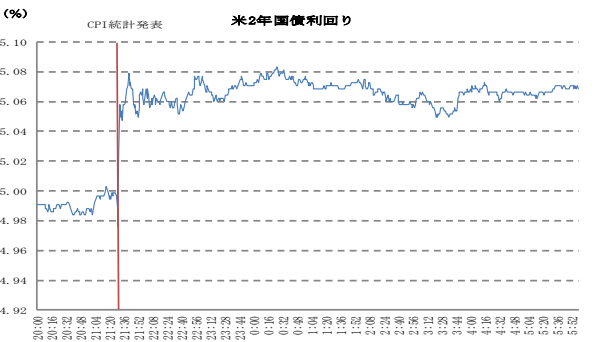
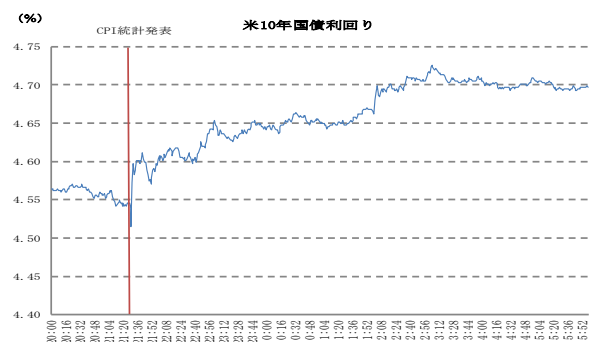
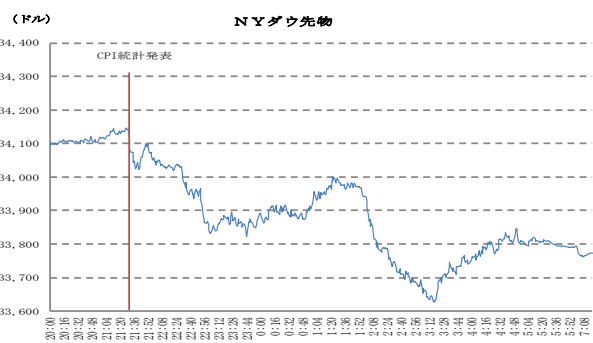
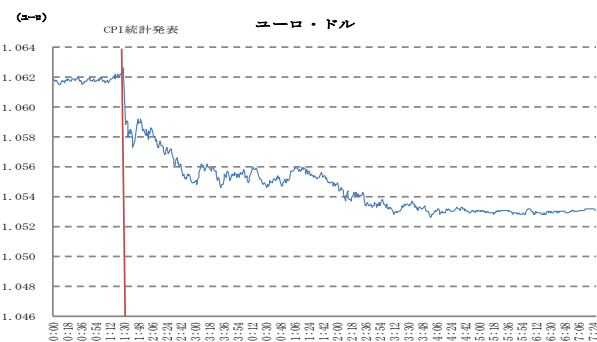


(%) 商品・サービス価格の推移 (コア、前年比)



(出所) 米労働省

(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。